

# 網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.71  
2017.3



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori \* 網張の森の生き物たち \* amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

## 不思議な存在感の“ヤマブシタケ”

厳冬の痛いような寒さが少し緩んだある日、森の中でキノコらしからぬ形のヤマブシタケに出会いました。「ん？これは一体何だろう…？」まるで取って付けたような不思議な存在感に目が釘付けになってしまいました。既に旬の頃は過ぎ、寒風にさらされて木工細工のように堅くなっていました。キノコは「木の子供」からそう呼ばれるように森林と深く関わってきましたが、その生え方は種類によってさまざま、このヤマブシタケも例外ではありませんでした。大切な子供である“孢子”をより効果的に散布すべく高い所に生えているのでしょうか。大多数の人にとっての森のキノコは「食べられる？食べられない？」に関心が向いてしまいますが、ほのぼのとした形の裏には生き残りをかけて、風などを頼りに孢子を散布する必死な姿が隠されているのを感じた出会いとなりました。

What is “Yamabushitake”?

「キノコに見えないキノコ」

サンゴハリタケ科  
径：5～20cm 前後  
分布：全国全土

晩夏から秋にかけて、ミズナラやブナなどの倒木や枯木の比較的高い位置に発生。出始めは白いが時間経過と共に褐色に。山伏の装飾にある丸い飾りに似ているのが名前の由来。乾燥したヤマブシタケがスポンジのように水分を吸うことからジョウコタケ（上戸茸）とも呼ばれる。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



# 網張から見える山ノート

5ページ目 おおもりの 生森 (七つ森)

おおもりの 生森 (七つ森)

標高: 348.4m

位置 (網張VCから): 南東

登山適期: 通年

おおもりの 特色: 生森は「七つ森」の中で1番背が高い事と、他の小山と違って変質した凝灰岩でできているのが特徴(他の小山は細粒の輝石安山岩)。

雫石町役場より東、国道46号線の北側に「七つ森」と呼ばれるぼこぼこした小山があります。現在は豊富に木々が生き茂っていますが、明治42年に国有林から雫石町に払い下げられた際には、買取りの代金にあてるため森の全ての木々が伐採されたそうです。以後、多種に渡る植樹や歩道の整備等を経て、ハイキングを楽しめるスポットに生まれ変わりました。実際に自然観察をしながら生森山頂まで登ってきましたが、往復でも所要時間は1時間もかからず、ほどよい軽登山でした。山頂からの眺めは、『雫石十四景』に選ばれているだけあって、岩手山や駒ヶ岳を望むパノラマは雄大で一見の価値がありました。



おおもりの 生森山頂からの展望、左端に見えるのは網張スキー場



おおもりの 生森への登山口脇で、オオウバユリの群生を発見!

山腹のスギとアカマツの林では、カラ類たちがにぎやかに早春の食事を楽しんでいた。



七つ森のこのつひとつが  
木の中よりもつと明るく  
そなたたいへんはまにの  
わたくしはでこほつなみちを  
このこほつをふみ  
向ふの編れた道筋の貴へ  
陰気な郵便太のやうに  
（またアツアツイン 洋燈とり）  
急がなければならぬのか

宮沢賢治にとって「七つ森」は多数の詩や童話に登場させるほどお気に入りのスポットで、「まんじゅう山」という愛称で呼んでいたとか。

## amihari birds

アミハリ・バース Vol. 1 4

昨年の初夏、こんな事がありました。休暇村のスタッフがキャンプ場の管理棟を開けようとしたところ、シャッターが収納されるボックスにシジュウカラが営巣しているのを発見しました。シャッターを巻き取った状態では親鳥は給餌できないので、VCスタッフが空の巣箱を持ってレスキューに行くことに。なんと、雛の数は8羽もいてびっくりでした。巣箱を元の巣に近い場所に置き親鳥の様子を伺うと、初めは警戒していた親鳥も少しずつ巣箱に近付き、雛鳥の鳴き声が後押しになったのか給餌を再開したので、スタッフたちはほっと一息つきました。



### シジュウカラ

科名:シジュウカラ科  
全長:約 14.5cm  
生態:留鳥  
分布:小笠原を除く全国

鳴き声

ツピツピツピ…  
チッチッチュ…  
ジュクジュク…



## 十和田国立公園に八幡平地域が新たに編入 “十和田八幡平国立公園の誕生”へ

網張ビジターセンターに保管されている白黒の古いニュース画像の中に「十和田八幡平国立公園」の誕生を記念して作業服姿の阿部岩手県知事と小畑秋田県知事が「八幡平」と彫られた標柱を八幡平頂上にスコップと棒で埋め込んでいる姿が残っています。昭和31年7月28日のことです。万歳が叫ばれる中、「長い間の念願だった国立公園の実現を関係者が喜びあい、今後は東北の一大自然公園として、年々多くの人々が訪れるでしょう」と高揚した口調のナレーションが挿入されています。その背景には昭和29年の「八幡平は国定公園」という答申に対して両県知事が連名で「失望の大なることと到底筆舌に盡くし得ざるものがあります・・・」との陳情書を提出し、地元として国立公園でなければ納得しないとの意思を示したという事情がありました。一方で管理を行う厚生省は「日本の国立公園は厳選されるべきで全国で20箇所以内に留める」との態度を崩しませんでした。しかし八幡平独特の火山現象と原生的な植生の価値を評価する意見も根強く、昭和30年に国立公園審議会委員が再度調査を行い、火山景観が近似し、隣接して利用の一体化も可能な十和田国立公園に編入することで、公園数を増やさずに、昭和31年7月10日、総面積85,551haに及び「十和田八幡平国立公園」の誕生となりました。その後、観光道路、スキー場などが整備され八幡平を訪れる観光客は増加の一途をたどり、一部には



国立公園に指定された頃の「千沼ヶ原」木道も無い時代  
提供：小原千里氏

自然の破壊も見られるようになりました。国立公園化に尽力した故瀬川経郎氏をして「それは国立公園の観光地化が進んだとでもいったらよかろうか。できるだけ便利にして、コレデモカと観光宣伝をかき立てる。その結果、所によっては過密利用を招き、山は荒れ、山は傷む。こうして全国の『とって置きのすぐれた自然』は、今世紀を境に、その尊厳と魅力を低下させてしまうように思われてならない」と嘆かせるような時代を経て、今では山の利用マナーは格段に向上し、ボランティアによる植生回復や外来植物駆除の活動も活発に行われるようになりました。

その反面、十和田八幡平国立公園全体の利用者は平成6年をピークに年々減少傾向にあり、現在では最盛期の4割程度にとどまっています。先人たちが厳しい条件の下で必死に国立公園への道を切り開いていった時代から60年の歳月が過ぎ、私たちには、次の世代に貴重な国立公園の自然をどんな形で引き継いでいくかが問われています。（連載終了）

### 環境省盛岡自然保護官事務所 アクティブレンジャー紀恵の公園駆け歩記

のりえ こうえん かけあるき

皆さん、こんにちは！盛岡自然保護官事務所の工藤です。この冬はいかがお過ごしでしたか？わたくしはスキーの特訓をと考えていましたが、十八番のへっぴり腰の癖が抜けず、上達したとは決して言えませんでした。

アクティブレンジャーとしての初年度が終わろうとしています。全ての業務が全く初めてのことばかりで、目の前に業務をほぼ反射的にこなしてまいりました。いつもバタバタしてホコリを巻きあげていたように思います。来年度はもっと落ち着いて取り組めるよう計画を立てたいと思っています。

今年度、沢山の方々にお会いして、沢山のことを教えていただきました。教えを下さった皆様本当にありがとうございました。また、これから教えて下さる皆様、どうぞよろしく願いいたします。

しっかりと胸に刻まれた教えもありますし、不届きにも一度教えていただいたのに忘れてしまった花の名前もあります。

まだまだ知らないことばかりですので、4月からもわたくしからのハテナマークを受け止めていただければ幸いです。

グリーンシーズンまでは少し間がありますが、山の中ではしっかりと春の準備が進んでいます。わたくしも彼らに遅れを取らないようにアップを始めるつもりです。

春容の国立公園でお会いしましょう！



パークボランティアの方々には  
沢山のことを教えてもらいました・・・



・本日のお客様は、千葉県松戸市からみえられた柏木 満智子さん。前日はビジターセンター主催の雪山登山体験「雪の鎌倉森をめざす」に参加。「思ったよりハードな登りだったけど、気持ちの良い疲れでした。」との感想。柏木さんが初めて網張を訪れたのは、東日本大震災翌年の2012年、小岩井農場まで来た際に網張のことを知り、ちょっと足を伸ばして来たら、あまりの景色の良さにびっくり、それ以来毎年訪れることに、「来る度に滞在日数が一日ずつ増えていくんですよ。」小さいころから祖父・祖母に連れられて日本各地を旅してきた柏木さんから見た網張の魅力は？「お湯がおいしいと山に囲まれた静かさ。それとビジターセンターのスタッフがかまってくれること」だそうです。その言葉通り、来られる度に必ずビジターセンターに立ち寄ってスタッフと会話を楽しんだり長時間読書したり、ゆったりとした時間を過ごしておられます。「各地でビジターセンターに立ち寄るのですが、施設や展示がすごく立派でもスタッフの姿が見えないところはがっかりです。その点、網張ビジターセンターはいろいろ話ができるので居心地がいいの。バーチャル全盛の時代に地道にアナログっぽいビジターセンターがあってもいいと思う。」日本の国立公園にこれから期待することは？「ゆっくり滞在できて、周りに四季楽しめる手頃な散策コースがあること。英国で整備されているフットパスのようなトレイルコースがもっと普及して自然を楽しむことができたらいいなあ。」そんな彼女は、自然に囲まれた暮らしを求めて、北海道の上士幌町でお試し移住を体験中だそうです。(スタッフ独り言・・・北海道もいいけど岩手の暮らしも結構捨てたもんじゃありませんよ。)



静かな展示コーナーで読書中の柏木さん



(\*フットパス：英国を発祥とする森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からある風景を楽しみながら歩くこと)

### VC 行事報告

### 冬の行事は大賑わい！



#### 2/19-26 巖鷲の滝 スノートrek

夏は深い雪に覆われ、厳冬期にしか行けない鞍掛沢の源頭を目指しました。その先にあったのは？ 40名参加



#### 3/5 雪の鎌倉森をめざす

米澤邦彦講師から雪山登山の基礎を学びました。頂上からは素晴らしい絶景が広がりました。31名参加

1/21 鞍掛山麓 アニマルトラッキング  
動物の足跡を追跡、純白の広い牧野をひたすら歩く 歩く 歩く 25名参加



### これからの網張ビジターセンター活動プログラム

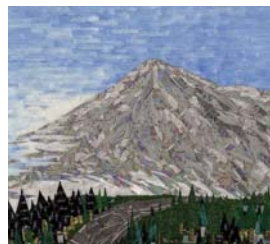
4月8日(土) 網張VC 集合  
「根開きのフナノ森で春を探そう」 9:30~14:00

4月30日(日) 網張VC 集合  
「早春の網張自然観察会」 9:30~14:00

上記以外にも週末は1時間程度のミニ観察会を開催予定！

### ◆現在開催中の網張ビジターセンター企画展◆3.1-4.30

## 一藤村 節子 布絵展一 「ふるさとの風景」

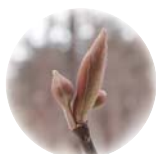


「今回の作品は、岩手山を中心に岩手の山々と自分の目で見た風景を多く作品にしてみました。仕事帰りに見る岩手山(市内から見た)、滝沢方面の岩手山、そして八幡平方面の岩手山、何度見てもあきることはありません。」-出展者のことばより-

**藤村 節子 氏**  
プロフィール  
盛岡市在住  
1946年岩手県矢巾町生まれ。岩手県高齢者協会主催の教室で「布絵」と出会って以来、意欲的に製作活動を続け、毎年盛岡市内で個展を開催している。

### モモンガのつばやき

いい香りだけど、人にそのよさを説明するのが難しい樹木があります。和菓子の爪楊枝で知られているオオバクロモジです。一言でいえば爽やかな香りですが、甘みのなかに青臭さもあり、実に複雑。香りの元を調べてみると、柑橘類の皮に含まれるリモネン含有している事が分かりました。(KH)



### 十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆1月 726人 ◆2月 1,420人  
ビジターセンター朝9時平均気温 ◆ 1月 -5.0℃ ◆ 2月 -7.0℃

### 発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2(網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 夏期(4月から10月まで) 休館日なし 9時~17時